

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和8年5月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1-①～③、図2～5）

山頂に設置した監視カメラでは、昭和4年火口でごく弱い噴気を観測しました。山麓に設置した監視カメラでは、今期間、噴気は観測されていません。引き続き、噴気活動は低調な状態です。

19日に実施した現地調査では、各火口の噴気や地熱域等の状況に特段の変化は認められませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図6）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。地震は駒ヶ岳の西側山腹で発生しました。火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図7～8）

GNSS連続観測では、特段の変化は認められません。長期的には、山頂火口原付近を挟む基線で断続的に伸長傾向が続いています。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び北海道のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和8年6月分）は令和8年7月8日に発表する予定です。

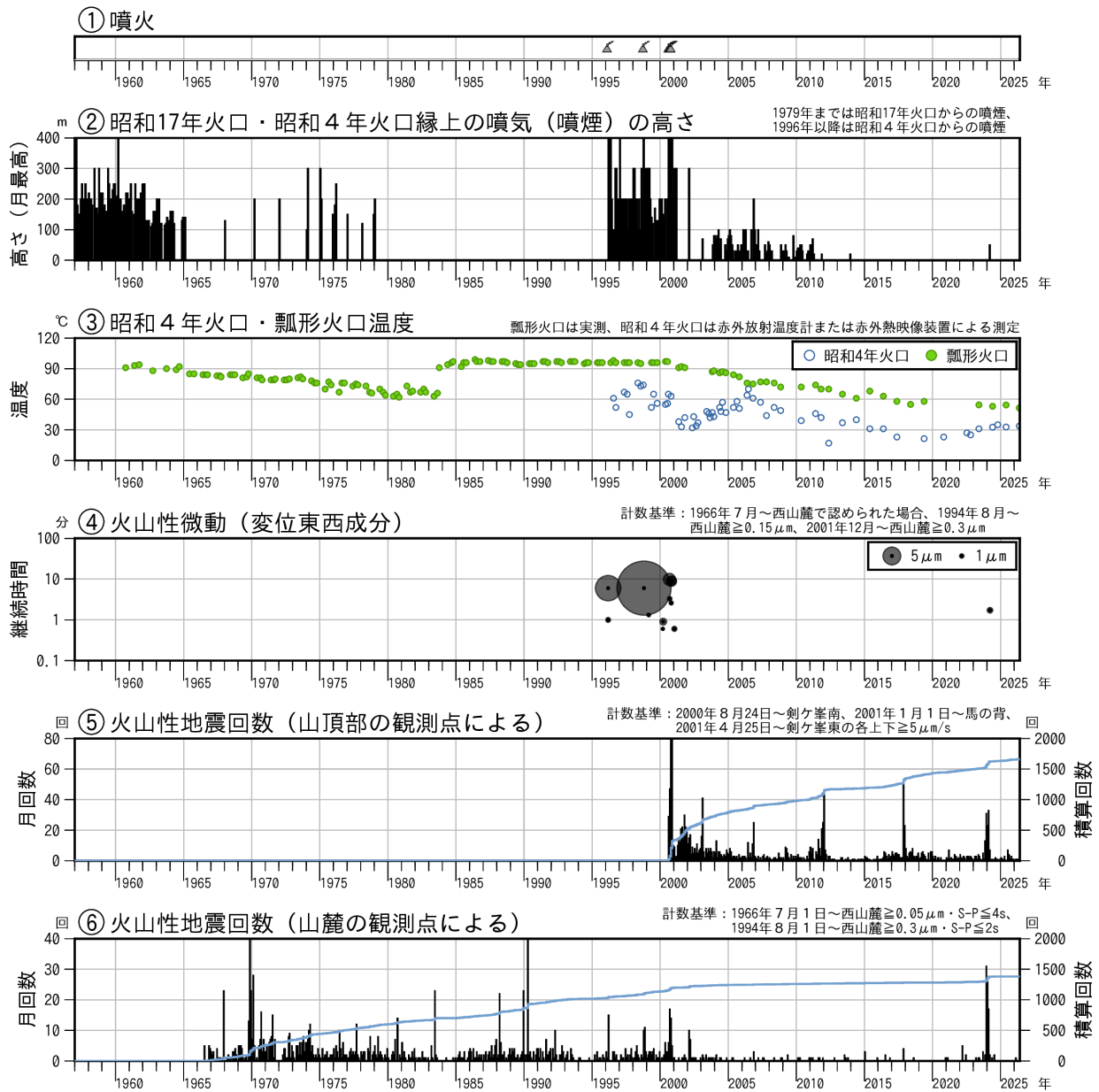


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2026年5月）
各火口の位置は、図2を参照してください。

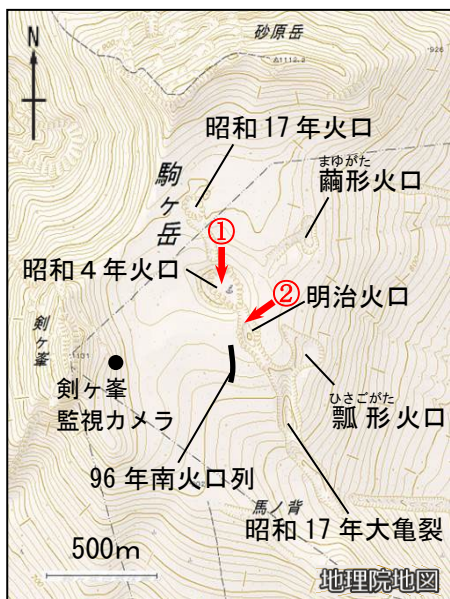


図2 北海道駒ヶ岳 火口周辺図と写真及び赤外熱映像撮影方向



図3 北海道駒ヶ岳 南西側から見た昭和4年火口付近の状況（剣ヶ峰監視カメラによる）

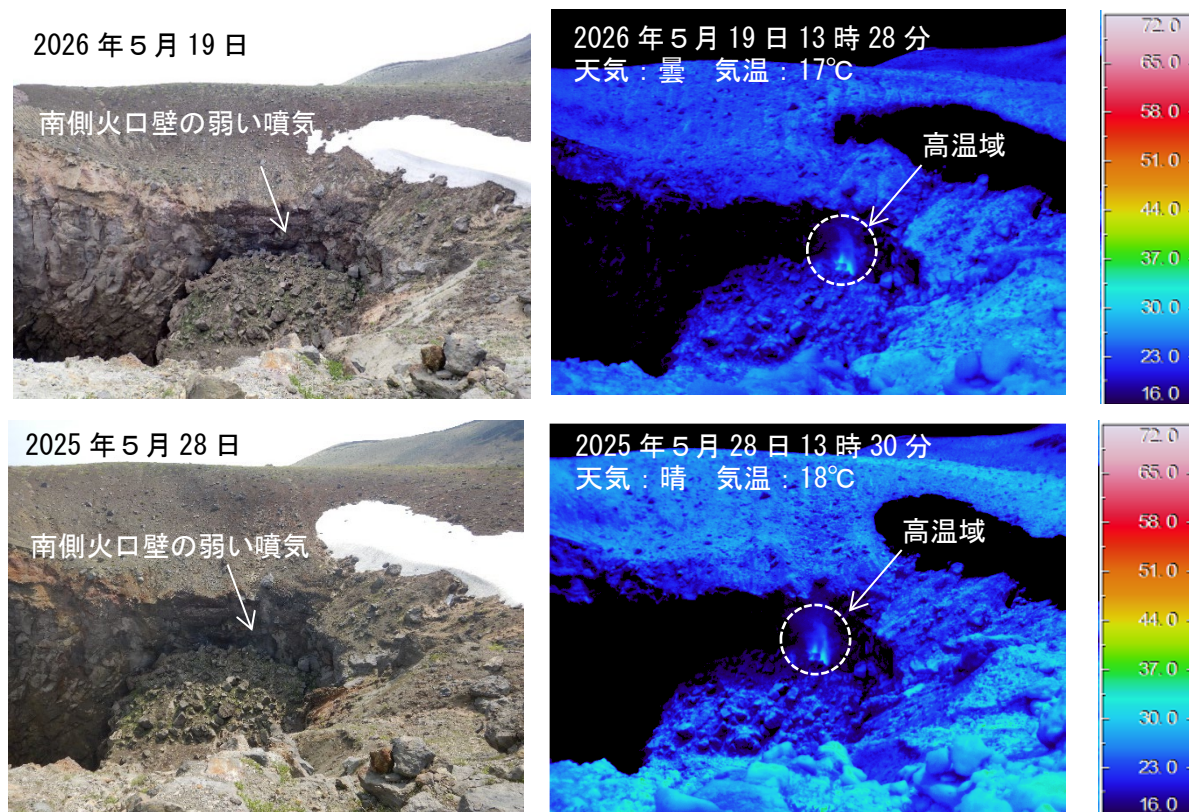


図4 北海道駒ヶ岳 赤外熱映像装置による昭和4年火口の地表面温度分布（撮影方向：図2の①）
・前回の観測（2025年5月）と比べて、噴気の状態や地熱域の広がりには特段の変化はありませんでした。

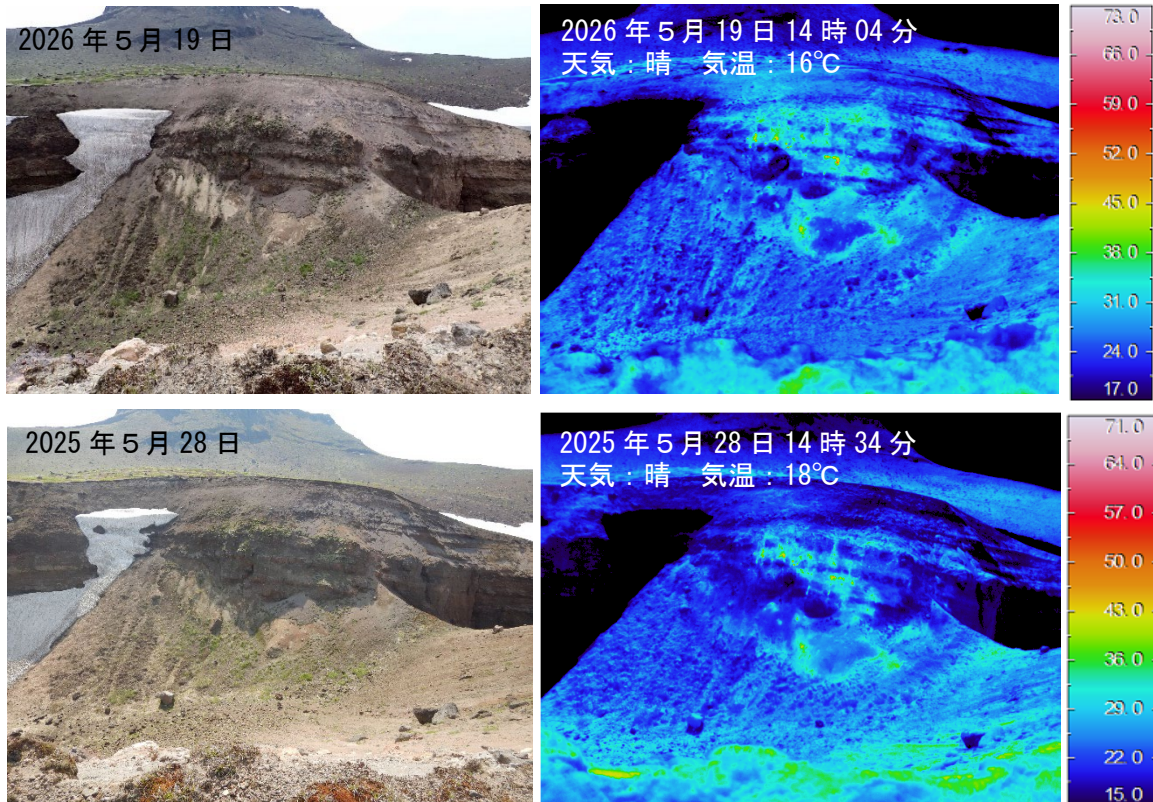


図5 北海道駒ヶ岳 赤外熱映像装置による明治火口の地表面温度分布（撮影方向：図2の②）
・前回の観測（2025年5月）と比べて、噴気の状態や地熱域の広がりには特段の変化はありませんでした。

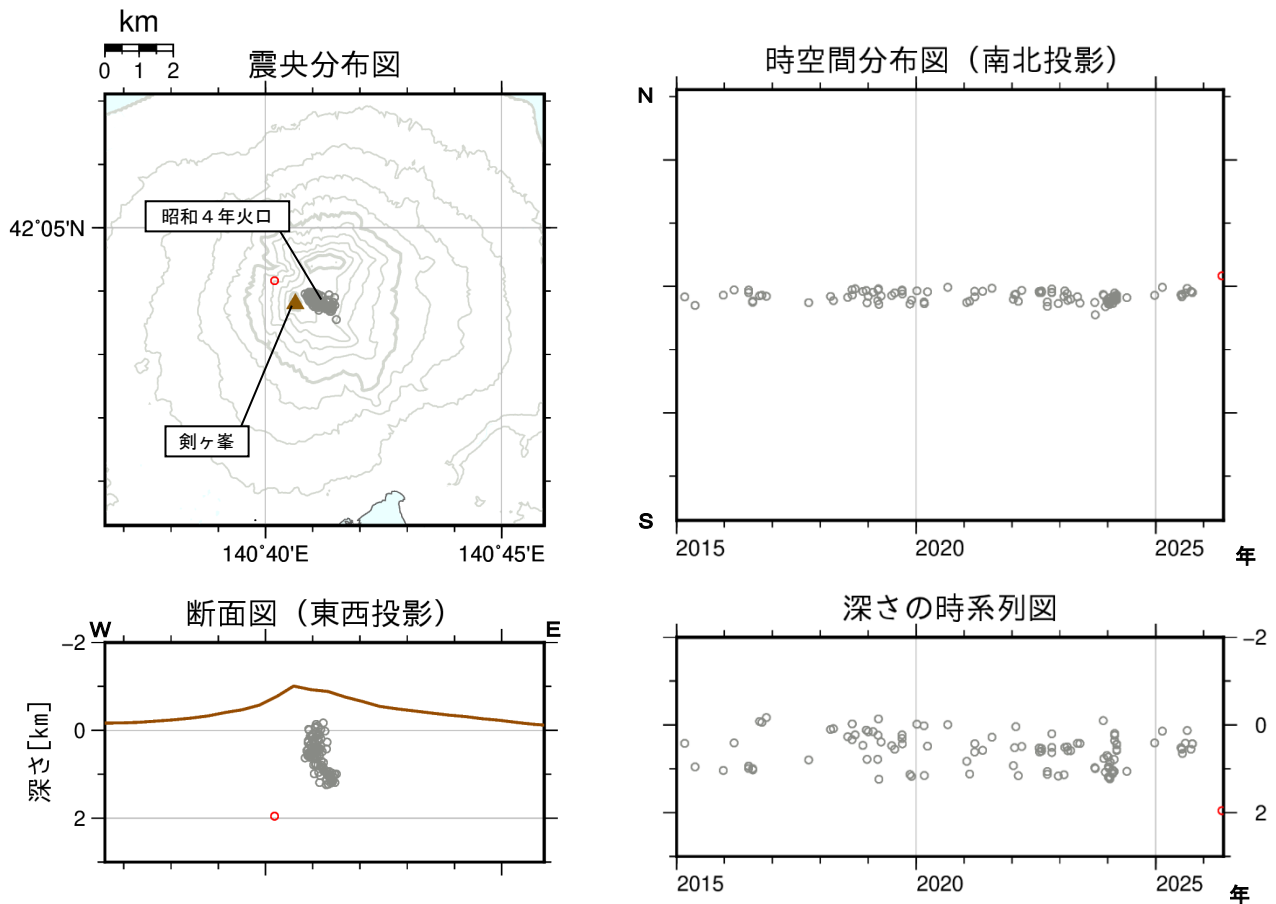


図6 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2015年1月～2026年5月）
 ○：2015年1月～2026年4月の震源 ○：2026年5月の震源

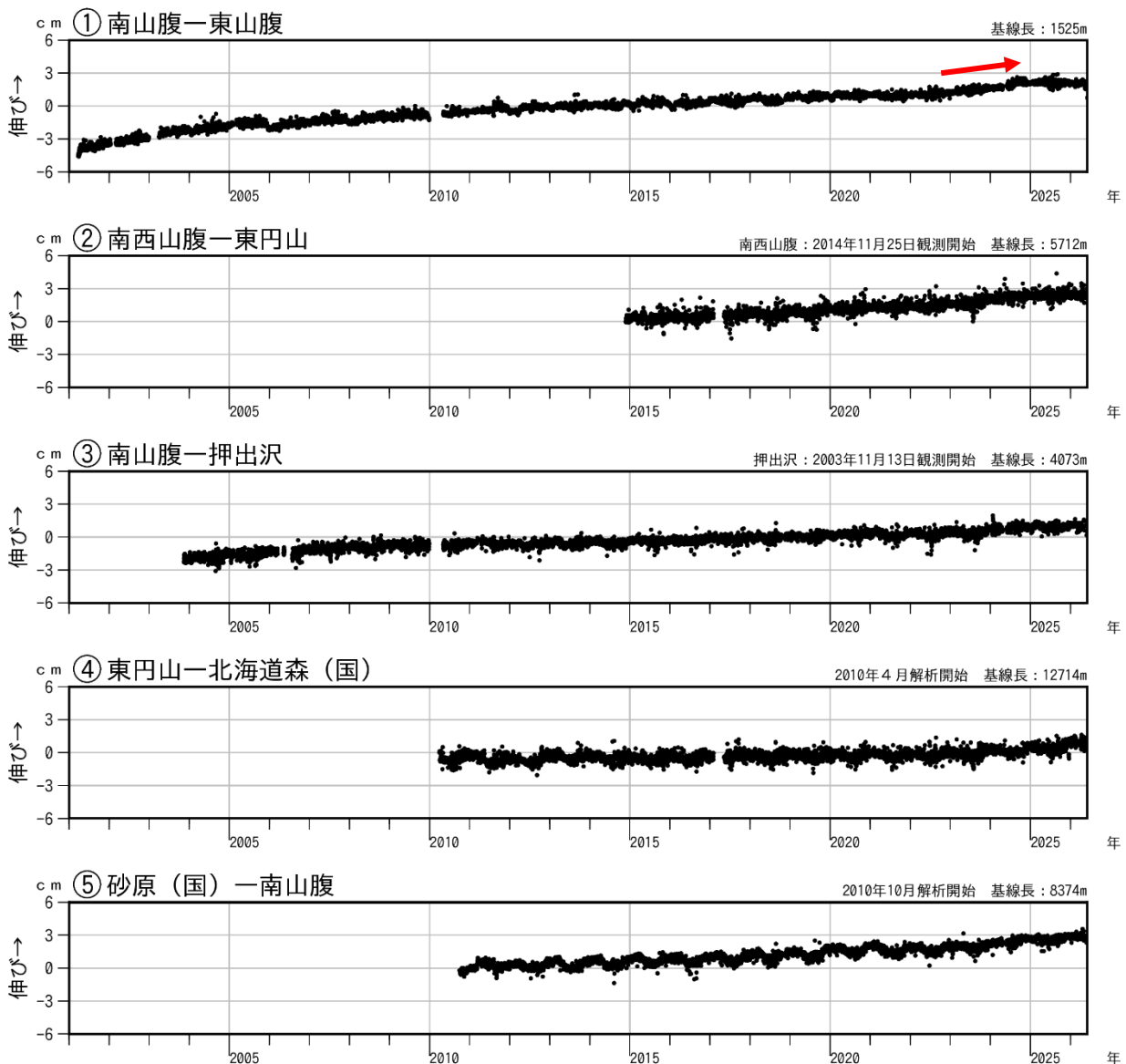


図7 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2026年5月）

グラフ①～⑤は図5の観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。

グラフの空白部分は欠測を示します。

- ・2022年頃から山頂部の一部基線でわずかな伸長（赤矢印）が見られていましたが、2024年1月頃からは概ね停滞しています。

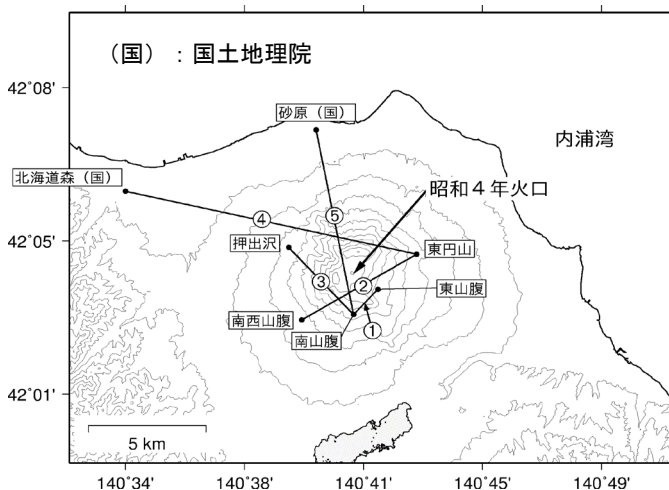
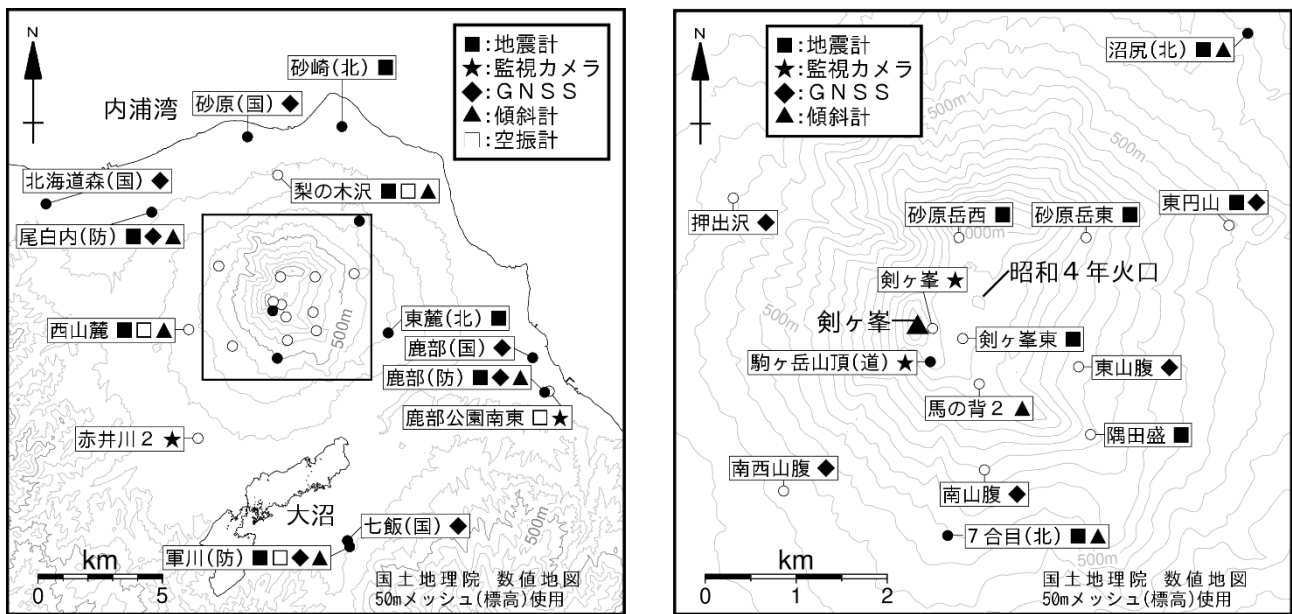


図8 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測の観測点配置図



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は他機関の観測点位置を示しています。左図中の四角囲みは右図の表示範囲を示します。
 (国):国土地理院、(北):北海道大学、(防):国立研究開発法人防災科学技術研究所、(道):北海道

図9 北海道駒ヶ岳 観測点配置図